



生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」▶
- 研究について▶
- 季刊「生命誌」▶
- 展示・映像▶
- その他▶

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日 [この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日 [この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見

その他

シブい、渋すぎた日本

投稿日：2014.06.29 ニックネーム：hon no mushi

最初はダンゴムシのように体節がしっかりしている感じでけじめがついていたのに、それが変態する時に消えていってまるでナメクジになってしまったように、くだけてざくばらんな投稿になってしまいますが…

ギリシャと中国について、思い浮かんだことがあります。

どちらも古代文明の発祥の地で、日本は中国から相当な影響を受けてきましたけど…もっと感覚的な「空気」、雰囲気についてのものです。

中国は行ったことがありませんので、想像するしかないのですが、なんだか殺伐とした感じの、荒地地に灌木がちらちらと生えていて、暑苦しい時もあるが気温が下がってもその気配は消えない…といったイメージがふと湧いてきました。かつて2千年も3千年も前の気候がどうであったかは知れませんが…

でも、現在の両者について、政治や経済の状況、全職業中の公務員の割合やらと思うに、とても似ているなあと思ったのです。

脇道にそれてしまいますが、ベルリンに寄った時、社会勉強のため色々な美術館に入ってみました。その中で、他の、風格ある神殿のような美術館や、近代的なデザインの国立美術館（だったと思いますが、もう10年以上前なので…）とは違ったところ、宮城県立美術館のような、幅広の階段が入り口の前にある、割合平べったい風体の美術館に入り…ガラスの中に陶器のコレクションが並んでいる部屋を通った時に、安土桃山時代のもののような茶器、茶碗が飾ってあるのが目に入りました。

その時の私には、他の国の、綺麗なスベスベした絵柄の美しく繊細なカップやらと並んでいるそれらが、まるで出廻らしのお茶のような、古臭くて、子供っぽいかわいらしさもなく、どうしてこんなものが重宝がられたのだろう、と不思議に思うぐらい貧相に見えました（本当に御免なさい不躰で…）。きれいな釉薬が塗られ独特の模様を呈していたり、ネイティブアートのような泥臭さとも違う、あれは…

(つい思い出してしまいました) …でも、日本ってなんなのでしょう…

その他

むずかしいことをやさしく

投稿日：2014.06.28 名前：杉山昭夫

『生き物が見る私たち』の目次と和田誠さんの絵を見ただけでワクワクします。科学書らしくない科学書であるところがとてもすてきです。というのは、私は科学が大の苦手で、和田さんには失礼ですが和田さんと同じレベルです。ですがこの本には、たしかに「科学は特別のものではないという空気が流れてい」たように思います。和田さんが質問すると自分が質問したような気になって、興味津々と読み進めることができました。和田さんの言葉を借りれば「ほかにはないような、おもしろい科学書を作ることができ」、中村先生はあとがきで、

「和田さんの絵の入った科学の本を作ることができて幸せです。」と書かれています。読み終えて、科学のおもしろさとこの本ができた幸せ感が、伝わってきたように思います。井上ひさしさんの言葉を思い出しました。「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいこと

新着情報



10月19日生命誌オープンラボ (19.10.01)

10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)

昆虫脳の標本展示が登場！(19.10.01)

パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)

あくあびあ芥川とスタンプラリー開催(19.10.01)

をまじめに、まじめなことをゆかいに」。この言葉に尽きるような気がします。扉の、恐竜が振り返っている絵がかわいらしいです。この本のできたきっかけが、毎日新聞の書評委員会での中村先生のあいさつというのですから、不思議なものです。

長くなってしまい、すみません。最後にアゲハチョウのことをお伝えします。狭い庭の隅に、山椒の木が1本あります。昨年、8匹ぐらいの幼虫が延びた若芽を一生懸命食べて、木が裸になりました。今年も出会いを楽しみにしていましたが、一匹しか見ることができませんでした。よく考えてみると、ぴょんぴょんと延びた若芽を、床屋のように切ってしまったのがいけなかったのでしょうか。たぶんアゲハチョウは切られた若芽に卵を生んでいたのではないかと思います。来年は、あの可愛い顔にたくさん出会いたいなあと思っています。

お返事

投稿日：2014.06.30 名前：中村桂子館長

「生き物が見る私たち」お読み下さってありがとうございます。和田さんととても楽しんで下さったことが杉山さんにも伝わったのかなあと、和田さんのアトリエでお話し合いた時のことを思い出しました。アゲハチョウ、研究館で元気に育っています。そして研究も着実に。来年を楽しみになさりながら、アゲハの研究室からのメッセージをのぞいて下さい。

その他

まとまりがつかなくなるようだけれどもまとまってしまう…おかしな話

投稿日：2014.06.27 ニックネーム：hon no mushi

連日の投稿は本当に気が引けるのですが
ぼんやりと言葉に浮かんできたものがあり…

遺伝子絡みで申しますと、大抵のゲノムは普段は使われてないで格納されているわけですよね…眠っているというか、物質としてのゲノムだけを見ると「生きている」かどうかというのはわからない…

…なぜかわかりませんが、どうしても私は自分が〈(半分は)死んでいる〉ような気がしてならないのです…こうして投稿申し上げている時は、ポコッとポコッと水面に泡が出てくるのを瞬間写し取り、記憶の引き出しに入れておいて…それを改めて文章に起こしているような感じ…いや、案外それが「覚醒している」という状態なのかもしれません…泡が湧き立つのを眺めている時は、実は上から見ているのではなくて、水面下、底の方から感じているだけなのかも…半死半生というか…

そして、書き込んでいるこの時が上から眺めている時…何が見えるかと申しますと…

そういえば、一昨々日の雹でも、竹にとっては問題なかったでしょう…地下茎が無事ならば無敵ですから…。今日も自宅脇の竹藪に出てきている若竹や筍を整理してきましたが、伸び放題にしておくともんでもないことに…若竹まで成長してしまうと表面が迷彩柄でものすごく気付きにくいし、それが一気に枝葉を広げるとこちらが通ることもできなくなるので…

…そうですね、あまりに日常的で慣れてしまっているそれが現実なのですが…その竹藪を上から見ている風な感じが「覚醒」している時…竹がどんどん伸びてきて、自分のいる位置まで迫っており、そのまま突き刺されるかして身動きがとれなくなるような切迫感がある…ので、その伸びてきた竹、のような〈言葉〉を切り取って整理整頓していく、という切り捨てに近い作業、が文章をつくることだと思ったのです

…字数制限があるなかでも、何かがふわと動き出すと、複雑に思念が連動し、かなりのクラスタというかまとまりをつくる…突拍子もなく突如として起こるのですが、こういうことは…私のなかでは…

(感じるまま、思い浮かぶままに書いてしまったので…聞いて下さるだけで結構です)

その他

「動詞で考えること」を、ちょっと変わったやり方で生命誌にうつしてみました…

投稿日：2014.06.26 ニックネーム：hon no mushi

益々変わった投稿、お許し下さい…

中村館長が常々語っておられる、「動詞で考える」ということについて色々なことが思い浮かびました…きっかけは一昨日東京を襲った恐るべき雹でしたが…

生命誌マンダラにトレースするようにのせて、うつしてみた、ゲノム体…を構成する時に演算を導入しましたが、その時の掛け算の作用が、動詞を使っている時の様子と呼応しているのではないか…

(遺伝子を先のように人に喩えると) 朝起きて活動し始める時が、その遺伝子が活性化され呼び起される時…などとして、更に、動詞にその模様をうつしかえると…

例えば、「食べる」という動詞で…上の遺伝子が覚醒した時、が「食べ始める」に対応し、(夜勤は別として) 日中活動している時は「食べている」、就寝直前が「食べ終わった」とき…

つまり、動詞が働くときが、遺伝子が働くとき、ゲノム体で掛け算をするとき…に対応し、(とりあえず働く時点で) 順序よく一列に並び揃っている各要素たちを呼び出し、かけ合わせ、作用させる、その機能が、それぞれの世界(ユニヴァースと申しましょうか)の間で保持され、各世界間を橋渡ししている軸…

(館長の着眼点は要所を外していないと思われます)

複数の遺伝子が同時に発現するのをうつし替えた様な(おかしな喩えですが)…一つの例を…「咬んで様子を見て走り出す」、それは「咬む」と「様子を見る」と「走る」という動詞がほぼ同時に呼び出され、その場を言い表わすよう適当な順序で並び替えられて組み立てられ、他の修飾詞も巻き込んで一つの糸筋のように撚り合い、文章表現となる…この際日本語の制約として、最後の動詞の主語が誰なのか分からなくなることがあり…絵的に表現されるものならわかり易いのですが…

…雹の話に戻ります…地上にある農作物は全部やられてしまったでしょう。サツマイモは勢いをなんとか盛り返すでしょうが、玉葱はどうか…昨年10月頃にタネか苗で植え付けをするのですが、植える日を一日変えただけでも一まるで初期条件を読み違えると、後々の誤差が途方もなく大きくなる数学的カオスのように一トウが立つのが早くなって食べられなくなる…



中村桂子の「ちょっと一言」

自分の身体を欠損したことがない者が命を懸けるときのこわさ

投稿日：2014.06.24 ニックネーム：hon no mushi

すいません、他愛無いお便りで…

今までもあったのですが、今朝支度をしていると、目の前をふーっと横切る虫のようなものがありました。素粒子を観測するのに泡箱や霧箱といったものを聞き…その光の筋のように速くはないのですが、感覚的には似ていて、これはやっぱり飛蚊症かな、と思ってしまいます…(目がかなり悪いもので…)

…先の投稿で触れた、台湾語や仏語が訳文なしで(素のまま)載っているのを一通りチラッと流して見て、何が書いてあったか正確なことはわからないまでも、なんとなくわかってしまっている自分を感じています。特に台湾語、広東語?の方は、漢字の字面からわかることが多いようです(状況が状況だけに使われる言葉もかなり限定されたものになっています)。…言葉の体系はユニヴァーサルなものですが、それぞれの体系同士には、うつし合えるそれなりのつながりがあるのだなあ…と改めて感じました。

…これは本当にローカルな発信・追伸になりますが、先の金属光沢のクモは、シロカネグモ…にチュウガタという形容詞がかかるクモらしいです。また、今年初めて遭遇したのですが、お米が入っている袋付近から小さな蛾がたくさん発生してしまっていて、もう一カ月近くになります。ハエタタキで叩いて落とし、弱ったところを潰す、その一匹一匹は大変弱いのですが、数が多く、今も闘いは続いています。位置的には離れた物置の米袋からも発生していて、どうやら同時多発的なものようです。図鑑で調べたら、マダラメイガという種類の蛾でした…

しかし、自分の身体の器官がいつ機能しなくなるのかに思い及ぶと、終わってしまうことへの怯えが芽生え、根付いてしまっていますが、どこにも差し障りが無い、特に若い人たちが、武功を立てようと眼を爛々と光らせて戦いに臨むのは、せめてスポーツぐらいにしてもらいたいです。…W杯サッカーもいよいよ盛り上がり上がってきましたが、明日の日本戦と、その前に行われる伊対ウルグアイ戦は、地獄の戦いになりそうな予感が…(後者は恐らくウルグアイが勝つでしょうが…)

堅くカタく考え尽された先に遊びがある、とは…

投稿日：2014.06.23 ニックネーム：hon no mushi

僭越ですが

実は不思議な夢をみまして…一人ぼつねんと、狭い方の壁が片側抜けている6畳ぐらいの部屋の中で、あいた方に向けて座っているのですが、いきなり両側の広い壁が取り払われて隣の部屋が丸見えになり、そこにいる人たちと話ができるようになって…日本人ではない、片側が中国人らしく、また片側は色の黒いアフリカ系の人…

そこからは、なぜかわからないのですが（他にも、ずっと先の部屋の人も一続きになったので集まってきていて）自然に話が進展しており、皆で一緒に何をしよう、何ができるか…という話をしているのです。

その夢はそこで終わってしまったのですが、もともと開いていた壁の方に何があったのか…空恐ろしく振り返る余裕もなく、なんだかとてつもなく広い空間が開けていて、解決しなければならない共通の課題がそこにあるようでした…

（先に挙げた漫画を昨日まで読み進めていて、台湾語やら仏語やら出てきてかなり変わった話になって…でもこの夢はもっと前に見たものです）

ふと、その夢の解釈として自然に思い浮かんだのは、遺伝子が働くときもそのような感じではないかと…ゲノムが擬人化されていますけど…いつもは緩やかに拘束されていて、働くときには担当の因子達が解き放たれる…

リーマン予想のゼータ関数の（ n 項までの）分母を合わせた時の分子の和は、遺伝子番号に相当する（よう半ば強引に結び付けてしまった）数達が、（全ての番号が使われ且つ一回のみの、まるで正則群のような）階乗から一つずつ抜けているものの和だと申しましたが…

！これは色々なヴァージョンが作れるのではないかと…

真っ先に浮かんだ具体例は、番号が階乗から二つ抜けているもの、更に絞れば隣り合う二連番が欠けているものの和…

これらは、ゲノム体につつすと、遺伝子を抜いたらどんな影響がでてくるか、その響きを確認するヴァーチャルな作業風…上の夢では、つながった部屋で一緒に仕事をする住人が二人足りない状況…

どの元々の項の和は〈波音〉が重なり合ったような感じ…でもその多彩な例も円や素数につながりそう…



中村桂子の「ちょっと一言」

国語6年生教材「生き物はつながりの中に」

投稿日：2014.06.21 名前：永松 智也

初めて投稿します。私は、福岡県で6年生の担任をしています。今、中村桂子先生の「生き物はつながりの中に」の学習をしているところです。子どもたちも興味深く読んでいます。

実はこの「生き物はつながりの中に」の学習では、『批評文を書く』という大きなねらいを掲げて学習しています。おこがましいですが、中村先生の文章に対して内容面、構成面から自分なりに共感できるかどうかという観点から考えを作って批評文を書くようにしています。この学習を通して、説明文の読み取り方や文章構成力をねらっています。

ただ、文章を書くときには、相手意識、目的意識が大切だと思っています。そこで、一つお願いがあります。「中村先生に批評文を送る」という相手意識にさせていただき、6年生が書いた批評文を送らせていただいてもよろしいでしょうか。どうぞよろしく申し上げます。

お返事

投稿日：2014.06.26 名前：中村桂子館長

どうぞお送り下さい。一つお願いです。あまり指導せずに自由に書いて欲しいなと思っています。楽しみにしております。

気ぜわしいけれど…一息つけば見えてくるもの

投稿日：2014.06.21 ニックネーム：hon no mushi

最近胸がザワついて落ち着かないのですが、リーマンのゼータ関数について勝

手なことを書き込んでしまい、「予想」の大雑把な姿をこれから知りたいと思
われる方には、はた迷惑かもしれません…

そこで、私なりに考えたイメージを、せめて叩き台として、お伝え致します…

上の関数で鍵となる各項の、(nのs乗)分の1 (ただし $s = t + i u$ (t, u は
実数))、それはどういう関数なのだろう…と思い描いてみました…

(以下はnの一乗を含めたi u乗として考えます)

特に、これを微分するとどうなるか、と思ったのです…大きな話ばかりして重
要なことを申していませんでした。

たぶん、nの自然対数 $\ln(n)$ 又は $\log(n)$ という係数がついたnのi u乗に
なるのだと思いますが、必ず「自然対数の底e」が絡んできます。微分する前
でも、一般の指数関数はeの係数がついたx乗と表せるから…

ここで先に挙げた『無限のなかの数学』に導き方が詳しく載っている、有名な
オイラーの公式(その際のテイラー展開は重要…)

$e^{i x \text{乗}} = \cos x + i \sin x$

を参考にすると(というよりもそのものに近い)、nのi u乗も実部と虚部が
三角関数で成り立っていて、何回でも微分・積分でき、しかも(係数が増える
だけで)基本的な根幹は全く変わらない、循環型の関数…更に、虚部の後を実
部が(またはその逆として)フーガのように追っかける、円から導かれたもの
だと分かります…

…ですから、ある一点、あるいはある直線上…に視点を固定してそこでカメラ
や望遠鏡を眺めていれば、波打つひだひだの模様が見えてくるのは当然…とい
うのがリーマンが夢想したことなのだと思います。

ただ、それが生命誌と密接に関わってくるのは、ドラムや太鼓の膜の上に細か
い砂を均等に撒いて振動を与えたら一定の模様ができるように…寄り合ったそ
のヒダは、遺伝子が溜まる固有の溝に対応しているようで…それはつまり、生
命誌マンガラにうつしかえたとき、階層に深く関係がありそう(だと私が勝手に
思い込んでいるだけかもしれませんが…)

…一息入れれば、落ち着いて見えてくるものがある…かも…



季刊「生命誌」

何かがつかめているのですが…

投稿日：2014.06.20 ニックネーム：hon no mushi

…昨日のごちゃごちを整理します…

ゼータ関数 $\zeta(s)$ を、取り敢えず1、(2のs乗)分の1、…(nのs乗)分の1ま
での和にとどめておき、それを便宜的に $\sum \{1 / (n \text{の} s \text{乗})\}$ と記します。

ゲノム(拡大)体の要素(遺伝子)はそれぞれ異なるものとみていますから、
各々に対応する番号nを調節して選び、両者の体の間に写像(うつし合うべき
対応関係)をつくります。

ゲノム体での演算の足し算(ゲノム直列つなぎ)は ζ 関数の和に対応させ、掛
け算(ゲノム並列置き)は番号同士の積に対応させるのです。

上の $\sum \{\dots\}$ は多項ですが分母を合わせて(分母を $n!$ (nの階乗)のs乗とする
と)、分子をまとめたものは、 $n!$ のs乗、 $n!$ から2を外したもののs乗、…
 $n!$ から $n-1$ を外したs乗、 $n!$ からnを外したs乗、の和になります。
これは…ゲノム体に「うつして」考えると、〈階乗〉は「n個全ての遺伝子を
相互干渉させること」、〈sに虚数を含む際のs乗〉は「擬似統計的に散らし
て様子を探ること」となり…そこでこの式の分子が実体的な意味を持つとい
うことは、遺伝子欠損マウスや進化していくうちに構造が簡単になるというカド
ヘリンのように、一個ずつ外していても全体が仮想ゲノムとして機能する範
囲内にある、ということです。

… ζ 関数は遺伝子の「溜まり」を探り当てるメタゲノムツールというところ…?

話が複雑になるので、リーマン予想のゼロ点近辺に、うつしあう遣り取りを絞
ります。

$\sum \{\dots\}$ に(ここで $n \rightarrow \infty$)、ゼロ点の一つ $a = 1/2 + i c$ を代入すると $\zeta(a)$
 $= 0$ になり、分母は係数として取り払い分子に注力します。

番号の $1/2$ 乗…それは同じ番号に対応する相同遺伝子が数的に半分しかないとい
うこと…そこで例えば父親から $(1/2 + i c)$ 乗に相当する遺伝子をもらった
ら(3倍体も含む)、仮想統計上、母親からは $(1/2 - i c)$ に相当するもの a'
をもっていないと…ゲノム拡大体にうつした時に、働く遺伝子を解とする方
程式の係数の塩基数が3の倍数になってこないのです…そして恐らく $\zeta(a)$ を因
数分解した中の、 $(s - a)(s - a')$ のp乗のpが階層に当たる…

頭がこんがらがりそうですが…

投稿日：2014.06.19 ニックネーム：hon no mushi

…差し出がましいのですが、リーマン予想（のゼロ点）と生命誌マンガラの関わりについて補足させて下さい…

昨日、キアゲハ便りに追伸としてゼロ点のことを記しました。私はゼータの導関数が0になる点、と最初申しましたが、本当はゼータ関数が0になる点らしいです（微分して0になる点なら積分して戻してもその点で定数になるのですが、 ζ 関数の積分と ζ 関数自体の関係に置き換えて考えると似たようなもの…）

それはよいのです。問題は昨日申したことに…

$a = b + i c$ がゼロ点なら、 $\zeta(s) = (s - a)$ の p 乗 $\times g(s)$ と因数分解できる（ s に a を代入すると0になるのですから）…

問題は、 ζ 関数の変数をゲノム（遺伝子）の順序（番号）とみて割り振った場合…リーマン予想から見えてくるものが何か、ということです。

… $s = 1/2 + i u$ という複素平面の直線上に「しか」、ゼロ点が（自明でない零点という条件付きですが…）存在しない…

そして、ここで最初に挙げた元の公式（ $s = 2$ ）を思い出してください。あの時は6分のパイ二乗になりましたが、ゼータ関数は実質的、本質的にはその無限級数のように、パイに絡んだ正の実数になるのです、ゲノムに絡めると（何せ番号の総体ですから）…

だから… $s = 1/2 + i c$ という零点があるとすれば、必ず $s = 1/2 - i c$ という零点もあるはずなのです！

（ゲノム演算では、虚数単位 i の意味は統計処理をするための便宜…と申しましたが）例を挙げますと、ゲノムの番号 n にルート $1/2$ がつく、ということは、「半分 \pm アルファは片親のもの、そして今自分自身が持っているのは、両親から受け継いだモザイクゲノム…そこから両親のゲノムを割り出すという作業を何遍も、何遍も繰り返すという、仮想統計を考えた後の、遺伝子の割り振られ方」…その仮想統計上で追い求めるアルファが、 $i c$ なのです。そして、虚数単位を方程式の中に入れてしまったことで、「予想」の $\langle 1/2 \rangle$ が実は \langle 双親からの分配 \rangle に相当することになる…のです！

…そして、零点はリーマン予想では無限に存在する…つまり、自分の受け継いだゲノムから両親を想定すると、自分には、ゲノム的にはちょっと違った無限に多くの「兄弟姉妹達」がいておかしくない、ということ…

二匹目のキアゲハが蛹からかえりました

投稿日：2014.06.18 ニックネーム：hon no mushi

…「研究について」の過去の投稿をチラリと拝読し…色々参考になりました

…新しい季刊生命誌が届き、これから開封します。楽しみでじっくり見ていこうと思います

…今朝、自宅周りの掃除をしていて、藪の中に背側腹部が銀色に光る、ホントにピカピカした金属の光沢のような銀色なのですが、そこに古代象形文字のような模様が浮き出ているクモを見つけました。まじまじ見ていると、その模様は、頭胸部に近い方から、八に近い「人」のような、そこから少し離れて縦に細長い「肉」のような感じで…少し時間が経つと銀の地に薄くなって埋もれていくようでした。腹側は緑で、草の色…

…そして、今朝8時前にバケツの中のキアゲハの蛹を覗いてみましたら、昨日よりずっと明暗のメリハリがきいていて、殻の腹部の節が割れており、8時過ぎに見てみると…もう成虫が外に出ていて（何かの関係で滑り落ちたらしく）バケツの底で、翅が固まらないくちゃくたした体で仰向けにもがいていました。堪らず指を差し出すと、しがみついてきて、そのまま観察していました。…前バネ外側の（写真を撮ったのでそれを見ると一目瞭然なのですが）、翅を閉じると腹部脇の模様と一体化して半円の続き模様に見える翅脈の先に、体液の玉のようなものが透明でついていて、時間がたつにつれ黒くなっていきました。でもそのまま抱えているわけにもいかないのです、壁につかまらせようとし

たら、偶然その球が私の手の平にうつってしまいました。…イカ墨のように黒っぽい液体で、ちょっとなめてみたら、タンポポの根の煎じ汁のように苦く、拭いてもなかなか手から落ちませんでした…
昼頃に様子を見に寄ってみると、翅を開いて止まっていて、写真を撮ろうとすると飛び去ってしまいました…

…もう一つ、 ζ 関数の零点について述べましたが、ウィキペディアで見ると、零点 a では $(s-a)$ の p 乗と別の関数の積に因数分解されるようで、この形は、先に引用したガロアの代数体を扱った本でも出てきていて、興味深いです…



中村桂子の「ちょっと一言」

「生き物はつながりの中に」の季節に

投稿日：2014.06.18 ニックネーム：竹ちゃん

夏の間、ケイコに来る弟子のことを、「蚊弟子」というそうですが、中村館長さんの教材「生き物はつながりの中に」の季節になりました。教科書の配当では、5月下旬から6月上旬になっています。今年も、出前授業として2校2学級の6年生と授業させていただきました。これで、この教材での授業は4年間で11学級計55時間になります。

ところが、今回、伺った学校の校長先生から平成27年度用教科書採択が始まっていて、新しい教科書を見ると「生き物はつながりの中に」が巻末の読み物教材になっていますね、と問われて驚きました。

その新しい教科書を、今日、展示会場で読んできました。巻末の読み物教材になったわけではありませんが、最後の単元で軽い扱いになってしまったなど残念に思いました。ページ数も6ページから挿絵などを減らして4ページに変わっていました。一目見て、読み難くなりました。子供達に興味関心をもってもらう工夫がより必要になり、教師の力量によって印象の弱い教材になるなど感じました。

でも、単元が「卒業するみなさんへ」になっていて、

- ・ 詩「生きる」 谷川俊太郎
- ・ 「着物はつながりの中に」 中村桂子
- ・ 「かなえられた願い 日本人になること」 ドナルド=キーン

と、3つの教材で構成されています。私が、5年前に65歳で始めた出前授業が谷川さんの詩「生きる」でした。（3月で89校159回の授業）その実践の中で中村館長さんの教材に出会うことができました。この2つの教材では、生命科学者としての、詩人としての、「いのち」への向き合い方を感じ取らせる授業を工夫してきました。その意味で、こうして並べられたことに意義を感じています。教師の工夫次第では共振現象が起こせるのではないかと期待をふくらませています。中村館長さんのご活躍に元気をもっている私も、12月で古希を迎えます。新しい教科書での授業のチャンスはないのではと思いつつも、胸をワクワクさせています。

お返事

投稿日：2014.06.19 名前：中村桂子館長

今日も六年生からの手紙が届きました。確かに来年からは手紙が来なくなるかなと思っています。一方、谷川さん、ドナルド・キーンさんとセットにさせていただき、生きることを考える広がりが出るのでそれは嬉しいことです。ここは先生の力量だなと思います。



中村桂子の「ちょっと一言」

純粹に 心から

投稿日：2014.06.16 ニックネーム：たま

本格的な暑さの 到来でしょうか 山々の緑や田んぼの香り 日本の美しさを しみじみと感じております。

「ゲノムに書いていないこと」など いつも楽しく拝読させて頂いております ありがとうございます。

物理学の事は何も分かりませんが 原子力発電所が止まり そのおかげで地球ニュートリノの存在が際立って見えてきたというお話しには 驚いてしまいました。

中村先生の「誌」というお考え方が 大好きなのですが ここからまた地球誌 宇宙誌へと大きな広がりを感じると 本当に嬉しくワクワク致します

生命誌ならではと感じております。

どうぞ これからの益々のご発展そして 世界に向けての発信を 心から
応援致しております

お返事

投稿日：2014.06.17 名前：中村桂子館長

「ゲノムに書いてないこと」お読み下さったとのことありがとうございます。
世の中、ゲノムに書いてないことだらけですから、さまざまところに
眼を向けていきたいと思えます。

季刊「生命誌」

しなやかさを思っ

投稿日：2014.06.15 名前：岡野桂子

哺乳類の胎盤にこんなに種類があるなんて驚きました。それに、感染したウイルスの遺伝子を取り入れて使っているなんて。母子の異質な細胞を融合させる。生命のしたたかともいえるしなやかさ。日本語や日本文化の成り立ちと重ねてしまいました。異質なものを受け入れるだけでなく、自分のものとして使いこなし、さらに洗練されたものに仕上げていく。大事にしたいなと思えました。

木の葉の中から現れたお猿さん。その身軽な動きには木々の枝のしなやかさが一役買っているかもしれません。細い枝でも折れずにしななってその身を受け止めてくれる。

季刊生命誌ありがとうございました。

お返事

投稿日：2014.06.17 名前：中村桂子館長

生きものは驚くようなことをやりますね。この驚きの気持を持ち続けられることが研究という場の魅力だと思います。

季刊「生命誌」

生き物自身の由来と行く末について（訂正をかねて）

投稿日：2014.06.15 ニックネーム：hon no mushi

昨日ザックリと申したゆえに思いっきり間違えたことがあります。

まず、最初の公式で、パイに二乗が付きます（志賀浩二著『無限のなかの数学』岩波新書より）。

そして、リーマン予想とは、その公式の二乗のところを s にして、 $s = t + iu$ (t, u は実数) にまで概念的に拡張し、これによって滑らかな複素平面で議論できるようになり微分も可能、という解析的手続きをした時に、 $t = 1/2$ 上にしか、ゼータ関数局面での山頂や谷底は出てこないということ…

でも、その公式の n (自然数) で表されるものが〈ゲノム体〉において何なのか、また、その実数乗や虚数乗というのも説明していませんでした…

まず、自然数 n は、遺伝子の通し番号と考えました。

実数乗と虚数乗は、近似統計図の波のように滑らかな局面を描くための方便と見ておきます。特に虚数乗は、そのような遺伝子があるかどうか分からないが…という含みを持たせて、ゲノム体演算での掛け算「同時に作用させ、相互に影響を与え合わせ、交響楽のように共鳴させる…」を、幽霊を扱うように施すこと、と大目に見て…取り敢えず、「予想」で最終的に示される $1/2$ 乗の意味についてだけ述べます… (当てずっぽう的な色合いが強いですが…)

2乗根、ルート…言葉掛けしているわけではありませんが、それは自分の親の遺伝子があるところ…親は二親かもしれないし、単為生殖だったら自分と同じ穴…

そして、ゆらゆらと陽炎のように t や u を動かすと、 $t = 1/2$ 上にしか、局面が平らになる所は現れない、というのが予想…

それはつまり、その穴ぼこや出っ張りのどれかが自分の祖先が眠っているところで、複数層ある素数均等分割円上の飛び石に結び付く遺伝子群にも対応しているということ、では…

生命誌マンガラで言えば、一つの種は同じ種が出た近くの穴から出てきて、近くの穴に帰る…環境からの選択圧力による何らかの突然変異は、自分の種の「穴」から (触媒作用のように持ち上げられ)、うつりゆく余裕があった時、

遠く別の「穴」に入り込む…

季刊「生命誌」

ゲノムからリーマン予想を考える

投稿日：2014.06.14 ニックネーム：hon no mushi

NHKのハードナッツという番組の予告編の背景に、 $1+2$ の二乗分の $1+3$ の二乗分の $1\cdots$ と足していくと $\pi/6$ になるという公式がチラッと見えたのですが、その式から $(\pi \approx \pi)$ …リーマン予想と(先に挙げた)素数分割円、生命誌マンダラが密接に関係があると直感し、今回はそれについて、〈ゲノム体(の演算)〉から敷衍して考えてみます…

リーマン予想…リーマンのゼータ関数 $\zeta(s)$ は、上の公式で、2乗を s 乗に変えたもの(元が無限級数なので、収束できる範囲は限られる)、その際、幾何(距離が導入された空間を扱う)的に虚数域まで s の可動範囲を広げると、ゼータ関数の実数部のゼロ点は全て、 $s=1/2$ 上に…という予想。

そこで、零点…(微積分を中心に扱う)解析の概念。ある関数を微分して、0になる点。速度、加速度といった物理的な見方からは、一定の慣性を保つ状態に入った感じ、病気でいえばバランスがとれ、それ以上病気が進まない落ち着いた小康状態…。

虚数、〈ゲノム体〉の所では定義していませんでしたが…そういえば明日はサッカーW杯で日本の初戦ですね、これから戦う相手の3チームはどこが優勝してもおかしくない(と私は考えています)…そこで各々のチームの選手を分身させて、百回戦わせてみる…といった仮想的な統計をとる、そのための「分身」、これがゲノム体における「虚数」…。DNA配列は要素が自然数みたいに跳び飛び不連続なので、それを滑らかにするための便宜的道具…。

ここで、リーマン予想を生命誌マンダラに置き替えてみます。

ζ 関数で、例えば4項目まで足すのを打ち切ることにして、分母を揃えて足し、分子だけ見てみます。すると、4までの二乗の積と、1~4まで一つずつ抜けた項の和になっているはずです。

私は、この抜けた数を含めてそれぞれ異なる遺伝子と見たのです。それが s をゆらゆら虚数域で揺さぶってみる…と…その微分した膠着点、シワの寄る所が…何層もの円に関わる…円上の固有値というか…

生命誌マンダラで、量子力学の励起状態風に固有の位置を占める生き物たちに密接につながってくるようで…

その他

ぬいぐるみではないのですが…科学と物語について

投稿日：2014.06.13 ニックネーム：hon no mushi

どうも口数が多過ぎて「それいらぬいぐるみ…なのでお口にチャック」とか言われそうですが…

物質的情報的な面がととのえられると、一遍に人間の快楽を刺激するのでは、と申しましたが…人間が物語をつくるときには、ものすごく不自然な点ができる…

たとえば、あるシーンから次のシーンまでの中に、不釣り合いな何かが溶け込んでいる移行の仕方がある…

さらに前回までに挙げた物語などに例を絞れば、一人の人や生き物が持つコマ(一場)の情態を $X1$ とし、それが次のコマで $X2$ となったとして、(曼陀羅の所で述べた足し算のように、時間をかけてその2つを追う感じで) $X1+X2$ とした時に…

(高木貞治さんの本などに常套手段で、二点間の距離を測る際、 $X1$ と $X2$ の距離(例えば $|X1-X2|$)が計れない時、迂回、あるいはクッションを置いて $|X1-X3|+|X3-X2|$ とかするのです、ただし1と3、3と2の距離は計れるものとして)

… $X1$ から $X2$ までうつりゆくのが飛躍し過ぎていて、不連続になっている…

…私の頭に浮かんだのは、 $X1$ は一人のひとが一生に使い切る遺伝子の総和だとして(つまり、それが「ある(バラバラにならずに残っている)」ということは、その人は「生きている」)、その人が生きつつも $X2$ のシーンに現れた時に、そのふたコマの間に、何か重要な段階を知らず知らずのうちに通り越している…のを、観察者(観客や読者)は想像して補う必要がある…(先程の距離の話でいえば)もしかしたら、 $+X3-X3$ というのを間に挟んで、 $X1-X3+X3-X2$ とし、 $X3$ を持つウイルスか体内の運び屋は、うつりゆく間に、生まれて

(やってきて) 死んでしまう…それで、X1-X3は一つながりとして生き、X3-X2は、また別の人生になる…

西川先生の系統樹の亀の甲羅のような模様で、根がどこか探るときに、一枚の紙の上を書いてある図を地面と平行に持って、紙の裏から覗くように、下の方からプスッと狙いすまして打つのを想像しましたが、上の話は、一旦過去に戻る(あるいは記憶の底まで行って戻ってくる)ということ…でしょうか…



その他

食欲、薬物(アルコール)依存欲求、性欲、支配欲…

投稿日：2014.06.12 ニックネーム：hon no mushi

(食事をしていて、また余計なことを考えてしまい…)

ブログなど…(私はウェブではこの投稿欄にしか顔を出さない偏屈なムシで、住み分けがある他の領域はわからないのですが)…投稿なさっている方は、自分の意見に対する反響が気になるかと思われます

(昨日の真珠の話から)…自分の体の内に、周りの環境から入ってきた音と光がこだまして、それらのうちのあるものは打ち消しあったり、あるものは重なりあったりして、それらの波が増幅され、複雑に反射され外に出ていく…いや、それは私の思考の在り方なのかもしれませんが(自己反射型というか)、半透明の筒のようになっていて、そこで、外からやってきた波が折り重なり、ぐちゃぐちゃした得体の知れない干渉作用が起き、一部は表現として外に抜けていく…なぜかキアゲハの抜け殻に自然にイメージが収斂してゆくのですが、それは生命誌曼陀羅において、より外側から見た内側階層の筒(特に中心)においても当て嵌まっているのかな、と思ったりもしました。

…これは昨日の投稿で伝えたくてウズウズしていたのにウっかり忘れてしまったこと…昨日早朝、何年か前の春に見たっきり、その後一度も会えなかったオナガグモに遭遇しました。…軒先に、松の細い葉に似たゴミのようなものが糸にくっついてぶら下がっていたので、振り払おうとしたところ、生きている例の蜘蛛で…嬉しかったです！本当に久し振り、一生会えないと諦めていましたから。待っているといいこともあるもの…果報は寝て待て、ですね(写真も撮れて)。その後、手元の図鑑で調べたら、ヒメグモ科…でもパッと見た印象は、小型のナナフシにすごく近いと思います。また、クモの脚が6対というのは初耳でした…(第1、第2はキバと触肢(オスの場合は交接器)らしい…)

さて、そもそも人間が変なのは…物質的・情動的に満たされた状況では、タイトルの欲が全部ごた混ぜ、一度に発現してしまうことがあるからでは…とお伝えしたく書き始めたのですが…

お返事

投稿日：2014.06.17 名前：中村桂子館長

クモと言えば以前書いたかもしれませんが、家の庭はジョロウグモの楽園みたいところだったのですが、今年はまだお眼にかかっていません。なにがどうなって現れたり消えたりするのかよくわかりませんが、さまざまな要因が重なり合っただけなのでしょう。たくさんいる時は歩く度にクモの巣にひっかかって迷惑と思っていたのですが、いなくなるとさびしいです。



その他

分け隔てる大地、分け与える命…

投稿日：2014.06.11 ニックネーム：hon no mushi

雨後の筍のように、見えない地下の記憶の底の方から、によきによきとどうしようもない想念が湧き出てきて…まるで真珠のネックレスをちぎって振り撒いたような雨粒が、雲に覆われた天から落ちてきて…そのような入梅の日に、またへんなことを考えついでしまいました。ご相伴頂けると大変嬉しい限りです…

日本列島は、氷河期にあっても北海道の先と対馬海峡で大陸とつながるだけ、それだけ日本海側の海底が深いということですが、これがもし、海で隔てられていなかったらどうなっていたら、と思ったのです。(あくまでも仮定の話ですが)

…アメリカ大陸の東側みたいになっていただろうか…いや…わからない…

…生き物は、自分を生かすだけではなく、自分が死んで犠牲になることによって、周りや次の世代に生きていくための素材を明け渡し、分け与えてゆくもの…人間もその例に漏れず、他の生き物達からの恩恵にあずかっているという、そういう環境の内であってこそ、ヒト種族の血肉を継承していける…

(また道がそれて他愛無い方に行ってしまうますが…先に挙げた(表現として漫画という体裁をとった)本は、もしかして主人公が、免疫系の抗体を、平静な世界で最初で最後につき合っていた人から譲り受け、後に合流する女の子にも、予期せぬ形で分け与えてゆく…そんな話なのかな、とも感じたのですが…)

また、真珠…キラキラと光を反射して光る…で思い出したので、この場にて書き残しておきたいことがあります。

イメージとして美しいという印象が、私の半身に染み込んで侵食しているような作品があったのを忘れていました…笙野頼子さんの『レストレスドリーム』…なぜこの場で思い浮かんだのかはわかりませんが、もう片方の半身が何かを欲しているのを共鳴して感じているのかも…机のそばに買ってずっと置いてある『犬身』?…確か松浦理恵子さんの…それも記憶の底から同時に出てきたとしか申す他ないものですが…

…自分でもわからないことばかりで、大変ご迷惑おかけします…



その他

コンとココロ (ルートと、ハート)

投稿日：2014.06.08 ニックネーム：hon no mushi

連発になってしまいますがお許しください。

丸二日以上降り続いた雨が一旦止んで、外の蛹を見ると半透明に向こう側が透けて見えており、外側の袋が切れ破れていたのです、！かえったんだ、ようやく…と心中で呟き、夢から覚めた気分です(…ケクレはベンゼン環について、夢の中で一匹の蛇が自分の尾を加えてぐるぐる回るのを見て、閃いたと聞きました)…)

ところで、西川先生に誘導され、宮田先生のお話を伺いました。

遺伝子重複と水平移動…勉強になります…私が投稿してきたジーン・フィールド(ゲノム体)に当て嵌めると、配列としてつながったものが(歴史をかけて繰り返したり、よそから頂いたりした結果としての足し算)、発生の過程でいくつもの遺伝子が同時に発現する様子(ここでも、季刊生命誌の浅島先生の回で見たイメージが鮮明ですが)、時系列でほとんど同時と言ってよいほど並列的に影響を与え合い、まるで交響曲で、パート同士が同時進行するように発現するのが(積(掛け算))では…と改めて思い浮かべてしまいました。

ところで、遺伝子配列やアミノ酸配列は、進化の過程でそういう風に歴史をつくって引き継がれてゆくのに対し、心は…発生途中ですり込まれてゆくのでしょうか…社会的環境因子から…

…今は少し落ち着きのない変革期…インターネットでグローバルに情報とモノが越境してくる…しかもそうやって便利が増すと個々人のつながりや遣り取りは一層希薄になり孤立化が促進され…文化的枠組みの再編成が起こる…

(そういえば、先に挙げた話の女の子、名は「はやかり」でした、確か…東北に多い名字とか…)



その他

ざわつくムシのココロ…

投稿日：2014.06.08 ニックネーム：hon no mushi

キアゲハの蛹…一週間以上たっているのにまだかえりません…バケツについた二匹目は、玄関に持ち込んで観察していたところ、水曜日の夜8時頃に緑の地が頭から褪せし始め、9時にご飯を食べてから15分ぐらいに行ってみると、もう蛹の姿になっていました。…それでもまだ、1分から1分半置きに体をくねくねとよじらせて身悶えしていました。いつ変わったのか見れなくて悔しかったのですが、バケツの底に、それまでは見られなかった黒いぐちゅっとしたものが落ちていたので、触ってよく見てみましたら、どうやら前蛹の時の衣だったようで、ああ、これを脱ぎ捨てたんだな、とちょっと納得しました…

あと、前々回、寄せてくる大波にも引き波も受け流す石垣、と申しましたが、上から見ると、沖とV字谷奥の両方に触先を突き出した双頭の船のように…いや、唇の様な…また、目を見開いた感じ、あるいはベンゼン環に近いかも…と勝手に空想してしまいました。

(本の登場人物の名字が間違えていて訂正したいのですが…確か発音は「…かり」で終わったような…覚えきれず見直すには骨が折れ…)

そして、前回の投稿についてももう少し…

私は、ピアノを（これから覚えるとして慣れるまで繰り返し）打ち込んでも、せいぜい白鍵止まり、黒鍵は使いこなせないだろうというずぶの素人ですが（どうせそれならチェンバロの方が…）

…白鍵のみのドで始まる調べは、だんだん高くなり、ラの音を越えるぐらいを中心に展開すると、（モーツァルトの曲でよく耳にするように）青空に小さな丸い雲が浮かんで一瞬陽が隠れるような、感傷的な陰りが感じられる…それは、自然に短調になっていたからなのですね…その後のシの音は移行音（その上のドに移るときに一時的に通る、下のドから7度の不協音）で、また長調に戻る…（無知の知で、本格的に転調する（自在に黒鍵が入ってくる）場合は、ギターなどの弦楽器にお任せして…）

…うまくアゲハのココロを写し取って、伝送できないのが残念ですが…



その他

息が止まってしまうようで怖かったけど、時が流れ出してホッとしたこと

投稿日：2014.06.04 ニックネーム：hon no mushi

逐一報告するものなんですが、まだ蛹はかえりません…そして昨日の夕方、二匹目がバケツの内側で、棒状の伸びた姿勢で固まっているのを発見し…今朝覗くと、まが玉状になっていました…今見に行ってもまだ幼虫の模様のまま…

…今回は、音楽について…ふと想ったことがあります…（君が～？音楽～？ファンクじゃないの～？そうでしょ、きっとそう！とかヤジが飛んできそうですが…そういう言葉はあえて呑み込んで申します）

…これは先の蛹の夢の続きになるかもしれませんが…時間が流れ出してよかった～とふと思ったのです。

モーツァルトの音楽は、とても滑らかで、自然体につくってあるような感じで好きなのですが（楽器も素人なので全く弾けませんが、聞くとともに流しているとリラックスでき…）、ベートーヴェンは耳が聞こえなくなる前、鍵盤を高音域まで拡張して悪魔の指と呼ばれている頃の曲までは、最高峰と言えるぐらいの高みを見せてくれるのですが、そのあとはカタくなって行って（芸術的には文句無し…）、長時間聴くと肩が凝ってしまうのです…その後はフンメル、シューマン、ショパン…ロマン派は（これも大好きですが）のめり込み過ぎて他のことに集中できなくなりそうで、苦手です…

バッハの音楽は、ヴィヴァルディの音楽を分析し、多大な要素に分けて、それらを再構成した壮大なものだと思いますが、それが時代が下って広がり、くだけて行って、確かマンハイム学派ぐらいで、モーツァルトが出てくる前の土壌ができていて…後は姉のナンネルがとっても重要な役割を果たしたはずで…

そこで思ったのです…ああ、時代が流れて…よかった、と。モーツァルトが永遠に生きていて、そこで時が止まってしまったら…

(困るのです)

その後に美しさ、麗しさ、華やかさ…で、彼を永遠に凌ぐような人たちが出てきて…モーツァルトは蔭の立役者で…それでよいのです、その方が安心して聞いてられるから…

贅沢を申してすいません（…前回挙げた漫画は、2巻ぐらいいまでめくって筋のない話だと感じましたが、音楽にうつしてみると…ものすごく演歌っぽい…と感じました）…



その他

これからはテリトリーを越えて生きる存在になる

投稿日：2014.06.02 ニックネーム：hon no mushi

蛹の夢、第2弾です（ムシが翻訳します、悪しからず）

朝日朝刊に震災復興について赤坂憲雄さんが、「グローバル化は第二の植民地

主義。植民地なき植民地だ」という西川長夫さんの言葉を引用し、東北の地を「千年の植民地」に喩えていて…

私は自分の眼で見て触って感じないと納得しない性分なので、修学旅行の時見た38mの津波到達ラインを実感できませんでした…

回顧していると…

行っておくんだって…と後悔した福島県浜通り…水戸も通り…そこは私の馴染んだ感覚が通用するかどうかわからない、行ったことのないテリトリー…潜在的に「怖い」という感覚が捨てきれないのです…その地域に影響を与えたくないという想いもあって…

でも、意外な展開があることも…

…かつての一人旅で、一回目はルーマニアの古城辺り、二回目は仏の中北部辺りで体験したのですが…いきなり中世とも絡みますが、三陸の谷に開けた漁港は、町の中心部辺りに避難場所を兼ねて巨大な石垣（とまで言わなくてもそれに近い基礎）でお城をつくって、映画村みたいにしたらどうでしょうか…津波が来てもその石垣を廻り込んで後ろに、返し波でも脇によけるような頑丈で高い石垣の…

そう思ったのは先の古城から…ドラキュラ城ことブラン城、山あいに入った、内部が日本の城のように小狭くごちゃごちゃしたお城でしたが、その近くに当時の民家を再現したものが村のようにあって、藁葺き屋根だったか床は確か土間で、日本の当時の民家に似ていた…もう一方の仏の川沿いの町は、広々とした川向こうを見渡せる大きなお城があって…どちらもドラゴンがでてきました…

…ブラン城からふと想像してしまったのは、城の周りにみをつくしのように海のなかに杭（悔い？）が沢山刺さっている光景…

…それは、『アイアムアヒーロー』（小学館）という漫画に弓削という名字の東北出の女の子が登場し（こんな表現もあるのかと…食えないホラーで読む際にリテラシーが必要ですが）その中の、東京の街を富士山から見下ろす光景と重なる…

お返事

投稿日：2014.06.04 名前：中村桂子館長

予告です。
赤坂憲雄さんとは次の「生命誌」で対談を予定しています。どんなお話になるか楽しみにしています。

その他

生命誌からの視点に共感

投稿日：2014.06.02 名前：杉山昭夫

『ゲノムに書いてないこと』の感想をお伝えします。コラムが書かれた13年間を振り返りながら読みました。この本は、一貫して生命誌の視点で日常生活から科学や現代的課題について、率直に書かれています。読みながら何度も心の中かで頷いたり、立ち止まって考えさせられました。私が生命誌研究館の存在を知ったのが約1年前です。そこから、生命誌の考えに強く惹かれるようになり、中村先生の本を読み続けてきました。このような形で13年分の思いを読ませていただけることはとても有難いです。専門的な本は苦手ですが、コラムという形で発信していただくと、時節に応じた話題を幅広く取り上げることができ、かつ、短く読みやすいうえに主張が明確に読み取ることができます。読み終えて、この本に出会えてよかった、中村先生のような方が日本にいてくださってよかったと思っています。中でも幼い時に目の前で爆弾を落とされるのを見て、戦争の恐ろしさを書かれたコラムは特に心に残りました。また、生命誌研究館を中心に様々な人的ネットワークを広げていることや素晴らしい出会いも楽しく読ませていただきました。どうか、これからも、つれづれの思いを発信し続けてください。楽しみにしています。最後に、今読んでいるのは、和田誠さんとの共著『生き物が見る私たち』です。とってもおもしろく読ませて頂いています。こういう話を、若いころ聞いていれば、もっと科学に興味を持てたのになあ、と残念でなりません。

お返事

投稿日：2014.06.03 名前：中村桂子館長

「ゲノムに書いてないこと」、「生き物が見る私たち」の二冊をお読み下さったとのことありがとうございます。とくに「生き物が見る私たち」は、和田誠さんと御一緒の科学の本は恐らく他にないと思っており、私にとっても記念になるものです。表紙の絵は何度見ても楽しく、机の上に置いていま

す。おっしゃって下さったように生命誌はさまざまな分野の方と御一緒できるところがとても楽しくありがたいことです。これからもよろしくお願いいたします。

その他

蛹虫が…笑った？

投稿日：2014.06.01 ニックネーム：hon no mushi

信じられないくらい暑い日が雨も伴わず何日も続き、水遣りに腐心していますが…壁についたキアゲハの蛹虫はまだかえりません。ただ、最初の薄い灰色よりはかなり明暗の差が出て、濃い色が増しているように感じます…

今回は

〈人間〉を考える際に、一つの喩えが浮かび…

（外は強い日差しに影が濃く…）

空気…空気に色はない

欲望…それは人間を含めた生きものの意識と共に存在し、まさに共生するように、この空気に自分の色をつけてしまう…。

（私はあの蛹虫の次の姿が「見たい」…これが当座の私の欲望の一つ…これは科学的な関心というのでしょうか。

「もっとよく見たい」…拡大鏡、顕微鏡が要る…この瞬間をとっておきたい…カメラ…成虫が出てくるまでの時間を計る…には時計が。これは科学に付随するもののように見えますが、次第に技術的、物的な欲求に変わってきている…ここからはもう、人間社会一般の話ですね…技術的に（特に最新技術を駆使し）完成されたモノは…モロに目に見え、触れたりすることができるので、必ず、金銭的な衣をまとうことになる…（つまりお金がないと買えない）

これが光が当たって目に見える部分…みんな叫ぶくらい…「わっ、きれい！ほしい！」とか…それを目指して駆け出し、疲れも吹き飛んで、両手に収め自分の胸に抱きしめたくなるほど…

…でも…私はそこを目指さない…この欲望のような暑いムンムンした（雨は降っていないので乾燥しているというけれど…実感的には喘ぐような）空気と強烈な日差しを避けて休めるような木蔭に入りたい…

相対的にくらく、目を凝らしても見えにくい陰の部分…そこに何か大切なものが隠れているような気がして…

恐らく、〈科学〉も〈夢〉もそこに眠っている…

も一度蛹虫を見てきましたが、まだかえりません…

かえりませんか？…なぜか自然にその言葉が出てきましたが

…転生を夢見ているような…

ふふっ…笑った…さなぎが笑った？

（DNAは同じなのに…、また、出てくるのが寄生蜂でも、そこには自然界の摂理が覗かれ…）

▲ ページの先頭へ

サイトのご利用について | プライバシーポリシー | サイトマップ | アイアポリシー | サイトマップ

BRH

JT生命誌研究館
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.